



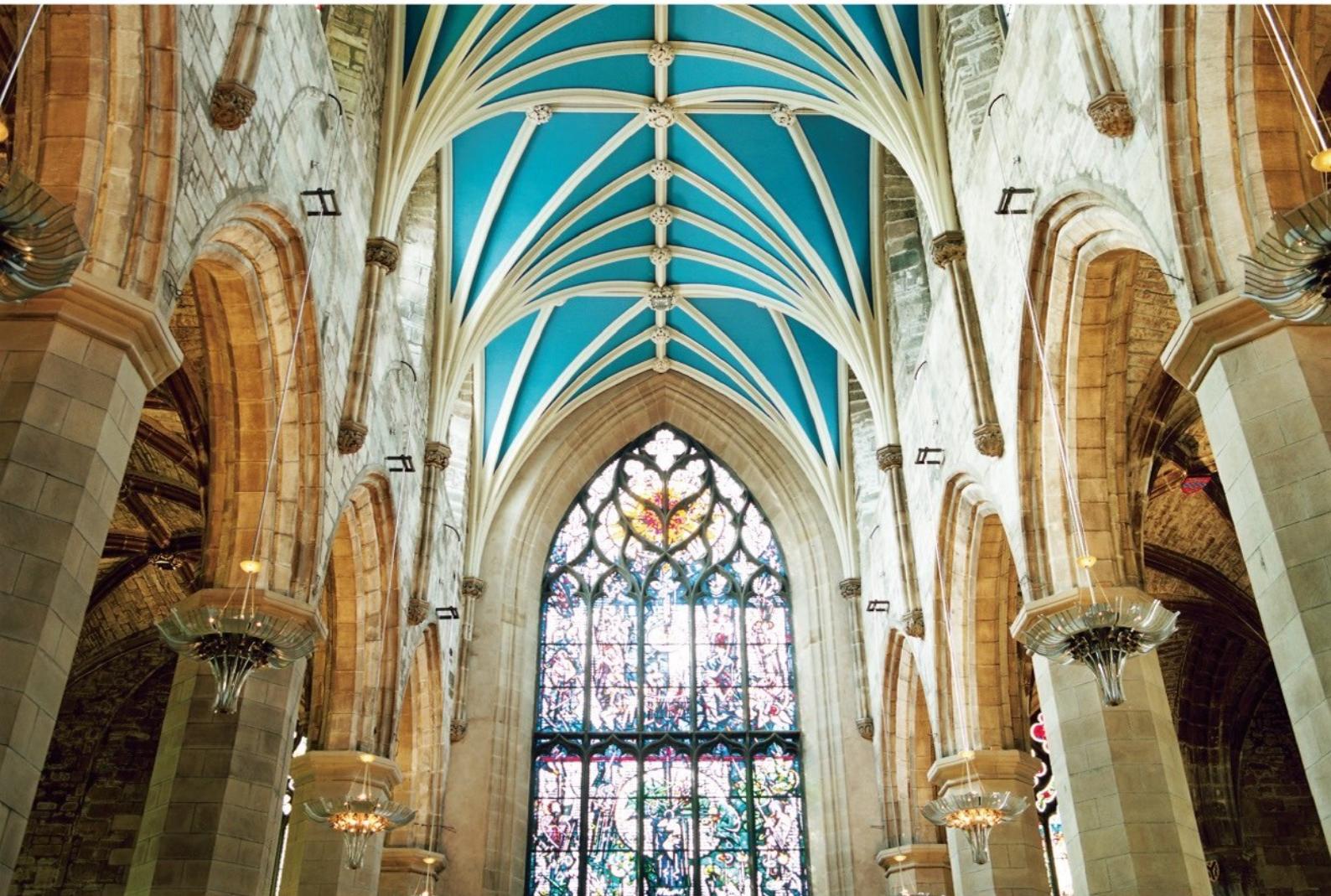
Friendship & Exchange

SCOTLAND GAZETTE Vol.15



スコットランドの風

'Gaoth bho Alba' NPO法人 日本スコットランド交流協会ニュースレター 発行責任者: 関 妙子 2020.10.20発行



目 次

Scotland Day + Burns Night 開催のお知らせ	1
新会長からのメッセージ & 新会長 ご紹介	2
新体制の紹介	3
名誉会長・顧問・名誉会員 紹介	4
大学院を終えて(2019年JSA奨学生)	
2020年度「日本スコットランド交流協会奨学生」	5
「日本スコットランド交流協会トンボ学生服奨学生」奨学生決定	
「コロナと銀杏とKANSAIと」高岡 望 総領事	6
「スコットランドのコロナ事情」kerry & Colin	7
グラスゴー大学日本同窓会・初めてのオンライン会合	8
Timothy Betjeman氏 個展	
原 雅幸氏 展覧会	
松岡 莉子さん『題名のない音楽界』に出演	9
スコットランドの日本庭園 / Shá Raku En (写楽園)	
本部・支部 活動報告	10~11
皆川 明氏の展示会・会員動向 & 協会情報など	12



JSA主催 / Scotland Day + Burns Night 開催のお知らせ

本年度の Scotland Day + Burns Night を2021年1月30日(土)17:00~20:00に昨年と同様、学士会館で開催致します。コロナ感染の状況を鑑み多くの検討を重ねてまいりましたが、昨年より広い会場で、尚且つ参加人数を制限するなどの対策を講じ、学士会館側の万全の対策も確認したうえで開催を決めました。今回は会場にお越しいただけない方々のためにWebでの参加も可能に致します。結果として例年より多くの方に楽しんでいただけると思います。プログラムには、奨学生の報告、Scotlandの文化に関する事柄の舞台上でのパフォーマンスや映像上映、全員参加のクイズ、伝統的なバーンズナイトのセレモニーなどが含まれています。Webでの参加を取り入れることで、よりダイナミックなイベントを楽しんでいただけることと思っています。詳細は、近々、ホームページ、会員一斉メールにてお知らせします。

新会長からのメッセージ



会長
スティーブン・ベーカー
(博士)

スコットランド国際開発庁

- ・日本代表(兼/韓国・オーストラリア・ニュージーランド代表)
- ・投資担当ダイレクター(アジアパシフィック)

Dear JSA members it is my deepest honour to be able to make my first greeting to you as your new Chairman. As many of you will know I am the Regional Director for Scottish Development International responsible for Inward Investment from Asia into Scotland as well as Country Head for Japan. Since the founding of JSA it has always been my pleasure to be a part of JSA as this organization plays a vital role in maintaining and creating the bonds of friendship Japan and Scotland.

The historical relations are deep and meaningful, many Scotsman played a significant role in the early industrialization of Japan and Japan, in turn, played a significant role in revitalising the economy of the UK & Scotland in the 80s and early 90s. JSA however takes us beyond trade and investment and plays directly into the border areas of cultural, educational and sporting exchanges that underpin the enduring ties of friendship between our two nations. During my time as chairman I would like to work with you all to see what we can do together to enrich ourselves through these exchanges and associated activities to further that bond between our two nations.

I'm so thankful to all of you who have become members of JSA and I'd like to look to see what I can do to make your membership have more meaning. Perversely the COVID epidemic may have pointed the way as to how we can realistically achieve this. Most of our membership activities to date have revolved around us coming together in physical events like Scotland Day, but participation has been limited by the size of the venue and just the sheer logistics of travelling to the event, often far off places. COVID has changed the way we communicate in today's world. Online meetings, webinars, seminars, lectures, educational courses and key events are now common features of our lives. From a personal perspective many now will connect online with family, friends and colleagues to have a chat, take lunch or dinner or even just share some moment over a drink. COVID for all the difficulties it has caused and the dramatic way it has affected our lives has actually led to new ways for us to come together, to communicate and share - in today's world distance is not a problem. This new culture is one which I hope we can all leverage. I would like to move our JSA culture to one of "active involvement". I'd like us all to see and explore how many events or activities we can put in place where we can all be involved. Where being involved can be a simple as just taking an hour or two

out of an evening to come together in our virtual explorations and celebrations of the relationships between our two nations.

In the coming months I would like to reach out to you all and ask you how you would like to be involved? What activity or event would you like to see JSA bring together - you may well want to take the lead in some of these events and that would be most welcome.

Please join me in creating a JSA based on active involvement where we can come together in friendship to enjoy, learn, and contribute by participating in those events and activities. As we look to build and continue the relation between our nations through these activities let us also do



something very special and lay the foundation for those that come after us the youth of our two nations.

合気道で黒帯をお持ちのベーカー会長



■ 新会長 ご紹介 JSA名誉会長 関 妙子

2020年7月1日にNPO法人・日本スコットランド交流協会会長にスティーブン・ベーカー氏が就任されました。十数年来の友人としてご紹介させていただきます。

ベーカー氏は、英国の名門ダーラム大学で学士号、修士号、博士号(分子エレクトロニクスの研究)を取得後、1985年にソニー(株)に入社して技術分野での研究・開発に重要な役割を果たし、日米両国で同社の副社長の役職を歴任されました。2006年にスコットランド国際開発庁(Scottish Development International: SDI、スコットランド政府の経済開発機関)に加わり、2008年11月にSDIの日本駐在代表に就任。現在は、SDIの日本・韓国・オーストラリア・ニュージーランドの代表を務めると同時にアジア全体の投資ディレクターを務めておられます。

日本での生活が長く、日本の社会・文化への理解はとても深く、黒帯(5段)を持つ合気道では、国内外で指導者として教えておられます。2018年には日本での永住権も獲得されました。その際には推薦状を書かせていただきました。

ベーカー氏には、JSA発足当初からJSA大使という肩書で参加いたしており、ご多忙の中、JSAのイベントにはいつも参加いただきSpeechをしていただいていたので、会員の方々の中にはすでに親しく感じていらっしゃる方も多いかと思います。このように、ベーカー氏は、現在に至るまで常に協会を温かく見守り、活動を支えてくださいましたが、この度、7月1日にJSAの会長をお引き受けいただきました。10年以上に渡り、Scotlandと日本の両国間でスコットランドの大使のような役割で活躍しておられるベーカー氏を会長に迎えられたことはJSAにとってこの上ない幸せであり、さらなるJSAの発展につながると信じてやみません。

新体制の紹介

6月末の任期満了に伴い、6月30日開催の理事会において理事・監事の選任を行いスティーブン・ベーカー会長の下、新体制が発足しました。会長、副会長、理事一同、決意も新たにJSAの発展に一層の努力を傾注いたす所存でございますので、今後ともご指導ご支援を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。

副会長 飯村 英人



この度、JSA副会長に就任いたしました飯村英人です。私とスコットランドの出会いは16年前に遡ります。それは2度の留学でした。2004年の大学4年生の前期を使いスターリング大学に半年間の語学留学と2006年～2007年9月までスターリング大学大学院 MSc in Innovation, Commercialisation and Entrepreneurshipで起業学を学び、合計2年間をスコットランドで過ごすことが出来ました。はじめの語学留学期間中は仲間と共に Edinburgh や Glasgow, St. Andrews、ネス湖などに出かけて楽しい時間を過ごしました。一方、post graduate の思い出といえば毎週迫ってくる課題の提出日に追われ睡眠時間を削ってレポートを書かないといけない重圧でした。そんなときでも寮と大学の往復だけは唯一気分転換できる時間だったことを思い出します。雨上がりの太陽と緑の牧草地は鬱屈した私の心を清々しい気持ちにしてくれました。スコットランドの地で学んだことは「学ぶことは何か」を学んだことでした。それは私の社会人としての礎となり今に生かされています。そんなスコットランドに少しでも恩返しが出来るようスティーブン・ベーカー会長と共にJSAの活動を盛り上げていけたらと思っています。

理事 三雲 崇正



本年度も理事としてお世話になります。私のスコットランドとの縁は2011年秋から2年間エдинバラ大学ロースクールに留学したことになりますがそれ以来世界でもっとも美しい国の一つだと思っています。JSAの活動がスコットランドと日本の懸け橋となるよう、弁護士の立場から微力ながらお手伝いさせていただきます。

理事 小根山 茜



理事に就任し奨学金事業に携わり始めてから3年が経とうとしております。自身の2度のグラスゴー大学学部・大学院への留学経験を活かし、留学生サポートも行って参りました。今後もStephen Baker会長を中心とする新体制の元、留学生支援・奨学金事業の更なる発展のために尽力して参ります。まだまだ若輩者ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

理事 新改 僅基



主な担当は会員情報やHPの管理です。スコットランドとの縁は、関先生に紹介して頂いた10年以上前の留学に始まり、継続的にJSAなどのお手伝いをしてきました。趣味はラグビー観戦です。今年は前スコットランド代表キャプテンのレイドロー氏が来日するので注目して下さい。JSAがより良い交流を生み出せるよう尽力いたします。

理事 松原 衣里



1998年から19年間グラスゴー近郊のノース・ランカシャーに住み、エдинバラ市の投資顧問に勤務。グラスゴー大学のビジネススクールで修士号を取得後東京で二年余りを過ごし、昨年エдинバラに転居。JSAスコットランド支部の活動を計画中です。当地にいらっしゃることがあればお気軽にお声がけください。

理事 Colin Macleod



My name is Colin Macleod and I'm originally from the Isle of Lewis on the west coast of Scotland. I studied psychology at the University of Stirling and worked in Santiago (Chile) and London before coming to Japan in 2005. I taught English for 3 years in Joestu City, Niigata, as part of the Japan Exchange and Teaching Programme. I am now an Assistant Professor at Atomi University, lecturing on British culture and researching computer-assisted language learning.

理事 香取 真理



新理事の香取真理です。JSAに様々な視点から貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。◎現在青森公立大学教授、同大学図書館長。地域の活動としては、青森県情報公開・個人情報保護審査会委員、青森市景観審議会副会長、第8回国民体育大会青森県準備委員広報・県民運動専門委員会委員長等を務める。

監事 光 恵子



この度引続き監事のお役をいただき責任を感じております。当協会が設立されてすぐ入会いたしましたが、多くの魅力的な方々との出会いがより一層スコットランドを身近なものとしています。今年は情勢が安定せずなかなか会員の皆様とお話しする機会がもてませんが交流を通してより楽しい会を築くことができたらうれしいと思います。

監事 齊藤 史帆



監事に就任しました齊藤史帆と申します。JSAには2015年に生きた英会話を学びたいと門をたたいてから、出逢う方々に唯々感銘を受けて参りました。個人的にはウイスキーとスコットランドのミステリ作家イアン・ランキンを愛好しております。文化交流に力を入れて行きたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局シニアアドミニストレーター 直塚 友起子



1999年から約1年間スターリング大学の語学コースでスコットランドに滞在したのが縁で、昨年よりJSAの会計のお手伝いをさせていただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局シニアアドミニストレーター 小山 舞



2018年よりJSAの事務局で活動している小山舞と申します。早稲田大学卒業後、エдинバラ大学の修士課程にて欧州政治を学びました。現在はコンサルティング会社に勤務しています。高校、学部時代を含む留学経験を活かし、主に奨学金関連でJSAに貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

名誉会長・顧問・名誉会員のご紹介

以下の方々にJSAの活動をご理解いただき、お力を貸していただいております。(飯村)

名誉会長 関 妙子氏 (英国Stirling大学名誉博士、教育学博士 Global Scot)



『創立メンバーで、長く会長を務め、協会の奨学金制度の創設に尽力されました。会長を退かれてからも名誉会長としてJSAを常に支え続けていただいております。1990年代初頭からスコットランドと日本の双方で多方面の活躍をされ、大学で教鞭をとられていたことなどから多くの日本人学生をスコットランドの大学に送り出していらっしゃいます。』

顧問 古川 俊治氏 (参議院議員、医師、弁護士、慶應義塾大学法科大学院教授及び同大学医学部教授)



『ご公務がお忙しい中、JSAのイベントにはいつも駆けつけていただき、国際交流が重要であるという観点から協会の活動に激励の言葉を頂いております。JSA創立以来さまざまな活動への全面的支援をいただいています。』

顧問 竹鶴 孝太郎氏 (竹鶴商品研究所代表)



『ニッカウヰスキー株式会社の創業者である竹鶴政孝(マッサン)・リタ夫妻のお孫さんとして、JSAでの講演でお二人についての貴重なお話、さらには日本のウイスキーについての興味深いお話を 통하여いただくなど、スコットランドとの縁という点でのご貢献にいつも感謝しています。』

顧問 野間 忠博氏 (ノーマデザイン代表)



『2012年JSA設立時、協会のシンボルマーク&ロゴタイプを制作。さまざまな賞を受賞されグラフィックデザイナーとしてご活躍中。JSAイベント等のパンフレット作成、Newsletterの編集・作成など、創立以来、大変お世話になっています。』

顧問 清水 邦保氏 (グラスゴー大学日本同窓会代表、CCMIカシミヤ・キャメルヘア工業会副会長、MBA、中小企業診断士)



『長年にわたりグラスゴー大学の日本同窓会長を務められ、日本においてはスコットランドの大学で一番長く安定した同窓会組織を作られました。JSAのイベントに対してもいろいろなご協力をいただいています。』

顧問 香取 薫氏 (青森公立大学学長、一般社団法人公立大学協会副会長)



『JSAの創立以来、理事及び、東北支部の支部長として、多大な貢献をしていただきました。今年7月からは顧問として、引き続きアドバイスをいただきたいと思っております。』

顧問 綱島 実氏 (ロキヤロン社日本代表、救世軍社会事業団: The Salvation Army評議員)



『スコットランドにある世界最大手のタータンメーカーであるロキヤロン社の日本代表として、JSAの念願でしたオリジナルタータンの作成に尽力いただきました。そのタータンを使用しての製品(ネクタイ、バッグ、スカーフ)の生産にも多大な力を貸していただいています。』

名誉会員: JSA創立以来、駐エディンバラ日本国総領事の方々には名誉会員として多大なご支援をいただいている。

田良原 政隆氏 (元在エディンバラ日本国総領事)

北岡 元氏 (元在エディンバラ日本国総領事)

松永 大介氏 (前在エディンバラ日本国総領事)

高岡 望氏 (在エディンバラ日本国総領事)

大学院を終えて(2019年JSA奨学生)

グラスゴー大学 MBA 榎本 政之

1年半に及ぶ留学生活もいよいよ終わりに近づいてきました。思えば50歳台半ばにして留学を志し苦手な英語のハンディキャップを負いながらもよくここまでこれたとの思いです。

グラスゴーでの学生生活はハードで、ロックダウン前は毎日授業と図書館通いの連続でしたが、生活自体は快適で、特にスコットランド人の気質はとてもフレンドリーで優しくとても住みやすい街でした。

3月以降のCovid-19によるロックダウンは生活を一変させ、授業はオンラインで外出は一日1回の散歩程度となりましたが、毎日クラيد川沿いを散歩する楽しみも出来、それはそれで貴重な経験となりました。

この1年半を振り返ると、勉学に打ち込めたことや、インターナショナルな友人も多くできしたことなど、楽しい思い出がいっぱいです。それになんといってもスコットランドの住みやすさは最高でした。



キャンパスにて(左から6番目)

スターリング大学 MSc TESOL 北村 望

修士論文では、日本人大学生を対象に高校生時代のスピーキング学習や経験についてアンケートとインタビューを行い、日本の英語教育、特にスピーキング力への指導の現状について研究を行いました。実際に英語を使う経験、そこから生まれる発見や成功体験の大切さが明らかになりました。また、それとともに、学生が教室内で英語を実際に使う時間と量の少なさが目立ち、日本の英語教育の課題の一つに気づくことができました。

山あり谷ありの留学生活でしたが、学びに貪欲になれたこと、情熱を注ぐことができたこと、切磋琢磨し合う中で生涯の友情を作り上げることができたことが今の自分の自信となり、これからを支えてくれると期待しています。スターリング大学という素晴らしい自然に囲まれた美しいキャンパスで一生ものの経験ができました。

それは紛れもなくJSAの皆様のお力添えと応援のおかげです。

本当にありがとうございました。

心より感謝申し上げます。 一番右



2020年度「日本スコットランド交流協会奨学生」 「日本スコットランド交流協会トンボ学生服奨学生」奨学生5名決定

今年度は「日本スコットランド交流協会奨学生」を下記の2名の方に
「日本スコットランド交流協会トンボ学生服奨学生」を3名の方に
支給することを決定致しました。コロナ禍での渡航ですので、例年
の様子とはかなり異なるようです。様々な困難を抱えながらの留学
となりますので、暖かく見守って頂けますと幸いです。(小根山)

「日本スコットランド交流協会奨学生」

グラスゴー大学 航空宇宙工学科
University of Glasgow MSc Aerospace Engineering
星 貴仁



今回、本当は大学や授業の様子などをご報告したかったのですがコースが開始されて数日たった現在、実は写真にあるように日本の自宅からオンラインで授業に受けています。コロナウイルスの影響でビザの発給が遅れ、不本意ではありますがいまだ日本にいる状態です。大学側も前期は基本的にオンライン授業に移行し、授業態勢はきちんと整えており僕は自宅からでも問題なく授業に参加できています。とはいえ留学の醍醐味を日々感じることは難しく、この時期の留学を後悔しそうになる時がありますが、今はこの現状を受け入れて逆にこの困難な状況を乗り越えて成長した一年後の自分が楽しみでもあります。そのために置かれた環境で精いっぱい頑張りたいと思います。

エディンバラ大学院
MSc Africa and International Development
石井 暢



アフリカの伝統的リーダーが地方の開発、平和構築において果たす役割を研究しています。授業が始まるとともに新型コロナウイルスの感染者が増加しており、外での食事や人との交流について規制が強化されています。授業はほぼ全てオンラインとなり、他の学生と交流できる機会も少ないため、新たな環境に移行した実感はまだ無いのが正直なところです。

一人での外出は問題無いので、先日 Arthur's Seat に登ってきました。美しい夕陽に照らされた草原とエディンバラの街並みを見下ろすと、コロナ禍の中、無事留学を開始できていることを幸運に思います。ご支援に感謝しつつ、日々すべきことをこなしていきます。

「日本スコットランド交流協会トンボ学生服奨学生」

エディンバラ大学大学院
MSc Teaching English to Speakers of Other Languages
額賀 まき子

私は日本の大学を卒業後、高校で語学教育に携わってきました。その中で、子どもたちには、英語を身につけることで各自の可能性を最大限に広げてほしい、そのためには世界最高水準の外国語教育を提供したい。



そんな思いを抱き留学を決意しました。受験予定であった試験が数か月分すべて延期されたり、感染拡大により渡航が危ぶまれたり、VISAセンターが機能を停止したりと、コロナ禍による予想外の事態も多くありました。また前期がすべてオンライン授業となり、慣れない学習環境に戸惑う日々ですが、みなさまの期待に応えられるよう精一杯学んでまいりたいと思います。

エディンバラ大学大学院 国際関係論

小山 光晶



今回の留学を決断したのは今まで日本のNPOにて働いていた見地を活かし、修士号を取得することでさらなるキャリアアップを目指そうと思ったのが始まりでした。しかし、今回のコロナウイルスの影響により渡航ですら危ぶまれ、大学からの連絡も直前まではほとんど来ないと、かなり不安な毎日を過ごしていたのを覚えています。現在は無事に渡航し、授業も9/21より開始しております。ただし、授業の大部分はオンラインで行われ、かつスコットランドの政策により、他学生との交流もままならない状況が続いている。まだまだ不安定な状況が続きますが、今だからこそ最大限利用できる機会を生かして、少しでも実りある学生生活にしようと思います。

エディンバラ大学大学院 哲学

渡辺 一樹



初めまして、東京大学修士2年の渡辺一樹です。このたび、光栄にも日本スコットランド交流協会トンボ学生服奨学生に選んで頂きました。大学院では主に、道徳について哲学的に研究しています。道徳とはいかなるものか。道徳は理論化できるものなのか。こういった道徳の問題について、イギリスのバーナード・ウイリアムズという哲学者を研究しながら、取り組んでいます。留学先は、エディンバラ大学の哲学修士課程です。エディンバラ大学は、伝統的な哲学の名門でもあり、今は倫理学の研究で有名です。エディンバラで最先端の知識を身につけて、自分の研究をすすめ、その成果の発表を目指します。

コロナ禍でさまざまな障害もあります。まだ渡航できていませんし、オンライン授業はとにかく疲れます。生活圏が違うので友達もできません。とはいえ、意外とオンラインの良いところもあります。例えば、文面での討論は非ネイティブにはやりやすく、生産的な議論ができます。渡航するまでは、オンラインの良いところを見つけて、活用します。

コロナと銀杏とKANSAIと 在エдинバラ総領事 高岡 望

前回「スコットランドの風」に拙文を寄稿する機会を頂いてから早一年、この機会をお借りして、スティーブン・ベーカー様の日本スコットランド交流協会会長ご就任、心よりお祝い申し上げます。

この間にエдинバラの日常もすっかり変わってしまいました。世界中の他の都市と同様、コロナを意識することなく一日が終わることはありません。

そんな中で、スコットランド政府のコロナ対応で特筆すべきは、ニコラ・スター・ジョンソン首席大臣が、イギリス全土でロックダウンが始まった前日の3月22日以来今日に至るまで、連日記者会見に臨んでいることです。

首席大臣は毎日1時間ハイヒールで、オンラインでつながった記者や一般市民の質問に丁寧に答えています。この姿のテレビ中継が市民の共感を生んでいることは間違ひありません。ある世論調査では、新型コロナウイルス対応に関するスター・ジョンソン首席大臣の支持率は74%です。ボリス・ジョンソン首相の21%と比べるまでもなく、極めて高い数字です。

人口あたりの感染者数、死者数とも大差のないイングランドとスコットランドの間で、なぜここまで異なる数字が出るのか。感染を恐れる市民の心情に寄り添おうという政府の姿勢がどれだけ伝わっているのかが、一つの鍵だと私は思います。

スコットランドでは、集会禁止、マスク着用義務化は、早めにスタートしました。テストが受けられなかった高校生の学力評価をめぐり混乱が生じた際にも、スコットランドがいち早くコンピューターの評価を使わないと決定し、生徒と親と教師から評価されました。

首席大臣の選挙区グラスゴーの地元紙ヘラルドの一面の見出しに、彼女の「職場の安全が確保されるまで、私は皆さんを脅して働かせるようなことはしない。」という発言が、ジョンソン首相の「職場に戻らなければ解雇の可能性が高まる」という警告と共に踊っていたものがありました。

悩ましいのは、いずれの発言も一面の真理を突いているということです。これからさらに経済の疲弊が深刻化し活動再開が叫ばれる一方、第二波の到来に伴い厳格な感染防止策の継続も必要とされ、どこでバランスを取るのが正解なのか、摸索の日々が続くことになるでしょう。スコットランドとイングランドの政治文化の違いがどのように影響してくるのか、要注目です。

そんな中で在エдинバラ総領事館は、感染防止対策を徹底しつつパスポート発給等の領事事務、コロナ関連の操業規制と日本企業の活動の両立、戸外とオンラインの広報活動強化を三本柱として、日々の業務に一丸となって取り組んでいます。

8月6日には設立350周年を迎えるエдинバラ王立植物園で、ロス・エдинバラ市長とフライ植物園園長と私の三人で、75年前の広島で

被爆しながらも再び芽吹いたイチョウの種子から育った苗木を植樹しました。フライ園長は、ロックダウン後初めて350周年のイベントが開催できたと、喜んでおられました。

世界中でコロナウイルスにより多くの命が失われている中、奇跡のイチョウの木が象徴する生命の力強さと世界平和の重要性のメッセージが、確かに伝わりました。

後日私からスター・ジョンソン首席大臣に、この植樹式の様子をメールでご報告しました。コロナ禍の中でも、関係者の努力により日本とスコットランドの友好関係が進展していることをお伝えしたかったからです。併せ、日本企業がコロナ禍の中、解雇者を出さずに頑張っていること、エдинバラ国際フェスティバルが中止となる中、これまでフリンジに参加経験のある日本のパフォーマーがオンラインで集結して、エдинバラ・フェスティバル・フリンジ・ジャパンを開催したことも、お知らせしました。

これに対し首席大臣から、「スコットランドと日本の友情のために価値ある支援と仕事をしていただき感謝します。」とのお手紙をいただきました。上記の活動にご協力いただいた皆様への大きな励ましとなりました。



高岡総領事・スター・ジョンソン首席大臣

最後に、先日お亡くなりになった、世界的なファッショントレーナー山本寛斎様とスコットランドの未だ果たされなかつた関係をご紹介して追悼の言葉としたいと思います。

山本様は、ソ連崩壊後のモスクワの赤の広場で、外国人として初めてイベントを開催して12万人を動員したほか、世界各地を「元気にする」素晴らしいショー、イベントを開催してこられました。

実は昨年10月に、山本様にエдинバラでお会いました。次はスコットランドまでパワーを届けるイベントをお考えとの嬉しいお話を伺った際に、民族衣装のキルトに話題が移り、私が「いい値段なので…」と申し上げたら、「総領事がいい値段とは、おいくらですか?」とのお言葉。後日早速奮発して、ラグビーのナショナルチームの公式タータンのキルトをあつらえました。

その出で立ちで今年1月、マッキントッシュ・スコットランド議会議長主宰のバーンズ・サバーに、臨みました。サバーのクライマックスは昨年本誌(Vol.12)でご紹介した、今や恒例となったエдинバラ駐在各国総領事によるTam O'Shanterの暗唱パフォーマンスです。

「馬子にも衣装」効果で、昨年に引き続き二年連続で、議長から「日本の総領事が一番良かった。」との発言を頂くことができました。

そのキルト姿で、再度山本様をスコットランドにお迎えしたかったのですが、かなわぬ夢となってしまい、大変残念です。生前に企画され、ご逝去直後の実施となった「日本元気プロジェクト2020」のフィナーレで、ライブ配信された比叡山山頂からの光は、確かにスコットランドにも届きました。こうしていただいたエネルギーで、コロナ禍を乗り切りたいものです。



(山本寛斎事務所様提供)



ロス・エディンバラ市長(左)/フライ王立植物園園長(右)

Family life in Scotland during lockdown, by Kerry Bryson



On 23 March the UK Prime Minister announced a full lockdown and everything changed: the roads were quiet, the streets were empty. Events, birthday parties, weddings and funerals were cancelled. Schools, shops, restaurants, parks, gyms, dentists closed overnight. Visitors were forbidden and we could only leave the house for exercise or essential shopping. My husband and I set up home offices, learned new digital skills as virtual meetings became the norm. Many projects were paused as colleagues or customers reprioritised tasks or were put onto the UK Government's furlough scheme. Our 3 children were home-schooling and adding to our stress was the inadequate Wi-Fi in our home. For our youngest the school day was reduced to just two hours. The twins Higher Exams (for University entrance) were cancelled. We were anxious about their education and how lockdown was affecting our family's physical and mental wellbeing. We set up a mini-gym in the garden and the dog was exhausted as each of us took her out for daily "walkies". Networking and extended family time was replaced with virtual dinner parties and zoom quizzes. Do-it-yourself haircuts had mixed results! Supermarkets were stripped bare of main essentials as people stockpiled and retailers imposed caps on pasta, flour, hand sanitiser and toilet roll! The HRH The Queen addressed the nation marking a truly unprecedented crisis. Scotland tuned in to the TV for the First Minister's daily briefings, and for news on how the virus was affecting other countries. We realised how grateful we were for the National Health Service (NHS) and thanked key workers in a weekly evening ritual of #ClapForCarers. A very proud moment was when 400 University of Stirling nursing students and staff volunteered for the NHS. War veteran Captain Tom Moore captured the public's imagination leading a £30m+ fundraising drive for the NHS to mark his 100th birthday. School children thanked the NHS by painting rainbows and placing them in our windows alongside teddy bears. So



teddy bears and rainbows



Family Gym: Kerry's 3 children



Wallace Monument

The Covid-19 crisis in Scotland By Colin Donald (Business Editor, Sunday Herald, member of JSA)

The UK has been one of countries worst affected by coronavirus in Europe and Scotland has played its part. As of September 20, 4,236 deaths have been registered where Covid-19 was mentioned on the death certificate (although many of these deaths will have been from other causes).

Shockingly, Scotland saw a surge of deaths in care homes, as infected elderly people were released from hospital into these nursing facilities without being tested, leading the virus to run rampant. As much as 46% of Covid-19 registered deaths related to deaths were in care homes, the same as in hospitals (the remaining 7% were at home). The care homes scandal is likely to receive close official attention when the virus subsides, with plenty of blame to go around in the inevitable enquiries.

Inspired by the example of our health workers and those keeping essential services going, the Scottish public has been reasonably conscientious in following UK and Scottish Government advice during lockdown. The focus of concern about secondary effects has been education, the likely damage to young people's development being an acute concern. One of the biggest stories of the crisis has been the Scottish Government's botched attempt to

awarding grades by algorithm rather than exam.

As with health and education, it is still too early to count the cost of the economic damage to the Scottish economy, though it is likely to have been high. The latest official figures show the Scottish economy suffering a near-20% drop in output in the second quarter of this year, in line with the UK. Behind this statistic lies a world of anxiety and waste in human terms. Scotland is a small business-heavy country and many enterprises have very little leeway to tolerate a few weeks of curtailed trading, let alone a few months.

Struggling to cope with the vast cost of the 2020 virus, Scots must take inspiration from the self-sacrifices and hard work that will eventually enable us to put the crisis behind us.



スコットランド議会の前

グラスゴー大学日本同窓会・初めてのオンライン会合 寄稿：清水 邦保氏 (グラスゴー大学日本同窓会代表、JSA顧問)

2020年8月26日グラスゴー大学日本同窓会は大学と共に開催で、初めてのオンライン会合を開催いたしました

英国における新型コロナウイルス感染急拡大により、グラスゴー大学では3月16日から授業を全面的にオンラインに切り替え、3月26日からウイルス研究部門を除く全キャンパスを閉鎖するなど対応に追われました。

今回の会合には在宅勤務中の大学の教授・職員も積極的に参加され日本同窓会会員とネット空間で一同に会し、日本側の来賓の方々にも花を添えて戴き、かつてない形式の同窓会となりました。

JSAからはStephen Baker会長と創立者・関妙子名誉会長、British CouncilよりはDeputy Director Jamie Gibbings氏にゲスト来賓としてご参加戴きました。

グラスゴー大学からはKonstantinos Kontis教授並びにWilliam Cushley教授からコロナ禍の大学及び学生への影響、新学期にむけての対応などについて説明があり、大学の新型コロナウイルスに対するワクチン・特効薬開発の国家プロジェクトへの積極的参画についても報告がありました。また、大学の矢崎早枝子講師より、日本・スコットランドの文化交流ならびに明治期以降の歴史



的関係について興味深いお話しがありました。

これまで地理的制約により同窓会会合に参加が出来なかった国内外同窓会会員も、世界各地から多く参加できたのはオンラインならではの収穫であり、今後ともオンライン会合などの様々な活動を通じて卒業生間の親睦を図るとともに、JSAとの連携も深化させたいと考えています。

to and works that I don't feel so much, but my hope is that in this exhibition at least some of the works will connect strongly with the viewer... / Webサイト「HIGHFLYERS」に掲載されたBetjeman氏のインタビューからの抜粋です。Text : Atsuko Tanaka

Timothy Betjeman氏 個展開催



JSA会員で本部の英会話クラスの講師もしていただいているTimothy Betjeman氏の個展「Hybrid」が南青山のニコライ バーグマン フラワーズ & デザインで開催されましたのでお邪魔しました。Betjeman氏は現在は文部科学省助成金受領者として東京藝術大学大学院で日本絵画の研究を行っていらっしゃいます。岩絵具や水干絵具など日本画に用いられる顔料を

巧みに用い華やかなであり繊細な世界観を表現されていらっしゃいました。日本画の魅力は?との間に「油絵とは全く正反対の描き方をすること。油絵は修正や上塗りをしながら仕上げていくのに対し、日本画は準備段階で全てが決まっているところ」と仰っていたのが印象的でした。(飯村)

When did you become interested in Japanese art?

At first, I entered from manga such as "AKIRA", and from then on, I was gradually influenced by various places, but the thing that had a huge impact was the exhibition of Ukiyo-e paintings by Kuniyoshi Utagawa at the Royal Academy in London. And after this there was a shunga (erotic prints) exhibition I saw at the British Museum. Before that, I had seen Japanese woodblock prints and other exhibitions, but I wasn't so impressed with the curation and direction. But after seeing those two exhibitions, I wanted to learn more about Japanese painting and started studying.

-So, what do you want the people who come to the exhibition to feel through your art?

I would be happy if you could feel what I felt when making this work. I think in any exhibition there are works that I am attracted

原 雅幸氏 展覧会

エдинバラ市在住の画家、原雅幸氏が9月、市内ニュータウンで1842年設立の歴史ある The Scottish Gallery の Realist & Lyrical Landscapes 展覧会に出品なさいました。超写実絵画と呼ばれる原氏の作品は、その緻密さに圧倒されるとともに、絵の中に心身ともに引き込まれいつまでも見ていたくなるような魅力があります。その後、幸いにも原ご夫妻にお会いすることができ、JSAに向け以下のようなご挨拶をいただきました。(松原)

会員の皆様、はじめまして、原雅幸です。22年前から妻と娘の3人家族でケント州に住み始め、その後エジンバラに移り早15年になります。ケルト文化を受け継ぐスコットランドと古代日本の縄文文化には共通する部分がいくつもあります。ですから、私の絵を見る人との間に共感が生まれるような、そんなスコットランドの風景画を描きたいと思

い続けています。



松岡 莉子さん『題名のない音楽会』に出演

(ケルティックハープ奏者、作曲家)

2020年07月25日放送、テレビ朝日『題名のない音楽会』に出演し、スコットランドの伝統音楽を演奏しました。

今回は番組の人気企画である「休日シリーズ！」にて、『知らないことだらけのハーブを楽しむ休日』に参加させていただきました。

私が演奏しているのは「ケルティックハープ」という種類のハーブでスコットランドやアイルランドなどケルトの文化が残る国で主に演奏されている民俗楽器です。実はハーブといっても、細かく分けると20種類程あると言われています。

先日の放送では、クラシック音楽を演奏するグランドハープ奏者、南米の民俗楽器を演奏するアルバ奏者のお二人と一緒に、ハーブの知られざる魅力をお伝えしました。

私は、スコットランドの伝統曲「ターロックゴーラム」をベーシストの西嶋徹さんの伴奏で演奏させて頂きました。

ターロックゴーラム / TULLOCHGORUMは、スコットランドの伝統的なストラスペイというタイプのダンス曲として知られています。1734年の書物の中にこの曲の楽譜が確認されており、もともとはバグパイプの曲と考えられていました。

今日ではフィドル（ヴァイオリン）のレパートリーとして紹介されることがあります。

今回、ハーブ界の大御所のお二人との共演ということもあり、大変緊張しましたが、ハーブ、そしてスコットランドの伝統音楽を多くの方に知っていただく貴重な機会として楽しむことが出来ました。

ハーブ演奏を通じて、今後もスコットランドと日本の文化を繋ぐ活動が出来ればと思っています。

テレビ朝日のスタジオにて



スコットランドの日本庭園 (Shā Raku En:写楽園) 復元後3月



ヨー」で金賞と最優秀賞を受賞)に依頼して庭園の復元に取り掛かりました。私が今年の3月に、JSA会員で Stirling 大学の渉外局長の Kerry Bryson 氏とともに訪れたときは完成間近でしたが、その後のコロナ感染拡大の状況下でどうなっているか、気になっていました。そこで Bryson 氏に、9月現在、開園されている姿の取材をお願いしました。その美しい姿については、Bryson 氏の記事と写真でお楽しみください。皆様



も、Scotlandにお越しの際には9000坪に及ぶ本格的な日本庭園を是非訪れてください。(関)

左から
関、Kerry、
Junya Matsukawa、
Kate White

この春3月、Scotland滞在の折に、幸いにも、100年前に西洋で最大にして最も重要と評された「カウデン城日本庭園」の復元現場に立ち会うことができました。スコットランドの女性冒険家エラ・クリスティが1907年日本を訪れた際に日本庭園に感銘を受け、1908年に当時英国の園芸学校に留学中であった半田たきに作庭を依頼、植物・樹木・生垣用の低木の多くを日本から輸入し、本格的な日本庭園を作り上げました。しかしながら、「愉しみと喜びの場所」と名づけられたこの庭園は、1963年、ヴァンダリズム（芸術破壊行動）の被害に遭い、木造の茶室や橋は放火され、灯籠や神社は池に沈められ、その後も長年にわたり、荒廃するにまかせていました。しかし、庭園を受け継いだエラの子孫サラ・スチュアートが2013年から大阪芸術大学の福原成雄教授（2001年に世界で最も権威のある園芸品評会「チャルシーフラワーシ

THEN AND NOW : Shā Raku En, the Cowden garden and restoring a piece of Japan in Scotland

On a freezing cold day in March, Taeko Seki, Anne Lawrie and Kerry Bryson visited the garden to meet the gardeners and see the restoration project. Kerry returned in September to see the progress. Today the loch is full of water, trout and carp; the Tea House is under construction, the dry garden looks fantastic - once again a place of peace and delight. During lockdown staff and volunteers created a unique online Geotourist trail where you can find out more information until such times as we can meet in Scotland and the Garden in person:

<https://geotourist.com/tours/4084> (Kerry Bryson)

ZOOM Meeting



東京本部ではコロナの感染拡大の防止策の一環で、定例ミーティングをZOOMで行っています。スコットランド在住の松原理事も参加いただいています。今まで距離と時間の関係で参加できなかった理事、事務局スタッフもオンラインで参加することで活発な議論がなされるようになりました。

英会話について

東京本部の英会話「Teatime English」は、会議アプリのZoomを使ってオンライン英会話をできるように準備しています。いつもの皆様と、そして新たな皆様や遠くの会員の皆様とオンラインで一緒に英会話ができるのを楽しみにしています。



ニュースレターなどの発送作業もスタッフ一同
万全のコロナ対策で頑張っています



8月19日に宮崎西ロータリークラブ創立60周年記念式典で国際奉仕賞(サミット賞)を受賞しました。

国際奉仕賞とは社会に貢献している個人や団体に贈られる賞で、私の場合2013年、宮崎公立大学とスコットランド・スターリング大学との学術交流協定締結に尽力した事が受賞理由でした。

関先生との出会いから2011年の夏にスターリング大学に夏季留学をさせて頂き、大学の環境の素晴らしさに感動し、数回訪問を繰り返しました。その折ケルト文明に興味を持ち、英国内はスコットランドを基点に、北はシェットランド諸島、南はコーンウォール地方を訪ね、海を渡り、スイスのヌーシャテル湖にあるハルシュタット文明遺跡を皮切りにヨーロッパ各地のケルト文明遺跡を旅して周りました。

その間それぞれの国の人々との関わり合いを通じ、私(前原正人)自身の世界観が広がってゆくのを感じました。

9月に入りスコットランドは秋めいてきました。昨年からスターリングにいらしていたJSA奨学生の北村さんが帰国なさる際にお会いすることができました。留学中に非常事態になりご苦労なさったと思います。お疲れさまでした、今後のご活躍をお祈りします。



It is with pleasure that I introduce myself. I am Benneth Esiana. I studied Biology and Environmental Sciences, BSc., and Soil and Environmental Sciences, PhD. at the University of Stirling. Presently, I lecture at Aomori Public University, in Japan, where I have continued with my philosophy to "teach thoroughly what must be taught". Incidentally, this also happens to be one of the university's Educational Policies. It is my utmost wish to work with colleagues and other members of staff here at the university to not only uphold our educational philosophies but also to enhance the delivery of our educational obligation which is to "Cultivate able-professionals with expertise to compete on a global stage".

Aomori is a beautiful place in its own right. With abundance of nature, it is no task at all getting out to enjoy the natural environment. Since arriving here, I have picked up a new hobby - cycling. With this, exploring the city and surrounding areas have become quite a pleasurable experience, time saving, whilst also being able to befriend local residents, and like-minded individuals.

I do look forward to my future here in Japan and beyond.



青森市 城ヶ倉大橋にて

2020年度は新型コロナウイルス流行の影響で、予定していたモウド先生の英会話教室やスコットランド料理教室、和久みどり先生の紅茶セミナー、「古賀博士のウイスキー講座」などJSAウイスキー倶楽部等もすべてキャンセルせざるを得なくなりました。また協賛していた関西ハイランドゲームズも中止されました。そういう状況の中、関西ハイランドゲームズではコロナ対応の活動が行われ、JSAとして参加しましたので報告します。

関西ハイランドゲームズの活動

当初計画されていた4月5日の関西ハイランドゲームズは中止となりましたが、Colouring-in contestは実施され、136点の応募があり、内訳は84点が6歳以下、22点は6~12歳、そして30点が成人ということでした。それぞれのグループの優秀な作品に賞品が贈られました。さらに引き続いて the Poetry contestが実施され優勝したのは Alan Gibson さんで、2位に私(香川・JSA関西支部長)が入賞しました。因みにその作品は

"Glasgow"

The tower soars at the top of the slope
and it leads to the Glasgow University,
as if the cathedral.

(邦訳)

坂の上に塔がそびえてグラスゴー大学
そびゆ聖堂のごと

6~12歳の入賞作品と賞品



12歳以上の入賞作品と賞品



さらに Translate the poem "Haw Maw" from Glasgow dialect into normal English. というコンテストが実施され、Elizabeth Mossさんが優勝されました。以下は Glasgow dialect を normal English へ翻訳されたもの的一部分です。

Glasgow dialect

Haw Maw! School's finished but.
'N ma belly hinks ma throat's cut
See's a piece an summat tae drink
Ma throat's rid raw n ah canny hink
Ma heid's beef n ma spit's that sour
Gie's summat tae tide's ower
Gie's peace! Gon see yer granny

normal English

Hey Mum, school has finished for the summer holidays, however

My tummy is so empty that it thinks that my throat has been cut.

Give me a sandwich and something to drink.

My throat is aching and I cannot think.

My head is muddled and my saliva is acidic

Give me something to keep me alive

Give me a time of
peace and quiet.

Go and visit your
Grandmother

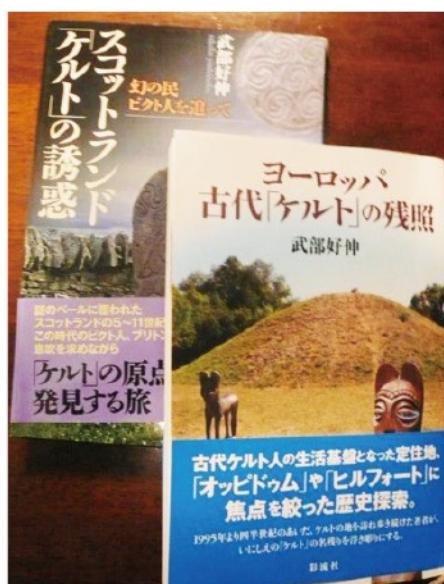


応募作品

JSA会員 武部好伸さんの新刊

『ヨーロッパ古代「ケルト」の残照』(渓流社)

武部さんはケルト文化の探究者としてご高名ですが、この度ケルト関連本としては14冊目となる表記を出版されました。「スコットランド「ケルト」の誘惑～幻のピクト人を追って」(言視舎)以来7年ぶりとなるそうですが、本書は13の国と地域にある29か所の貴重な遺跡を取り上げておられます。もちろん元新聞記者として、すべて自分の足で稼いだ<「現場主義」>に基づくものです。



皆川 明氏の展示会を訪ねて



左から皆川明氏・関名誉会長・綱島実氏

東京都現代美術館で2019年11月から2020年2月まで、デザイナーの皆川明氏の展示会「ミナ ベルホネン / 皆川明 つづく」展が開催され、大変評判となりました。9月3日に皆川明氏の渋谷・代官山での

展示会にJSA顧問の綱島氏に誘われて伺いました。皆川氏は、流行に左右されずに長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をコンセプトに、さまざまな国の生地産地と深い関係性を紡ぎながら、オリジナルの生地を生み出し、それらの生地を用いて作品を製作することで知られています。皆川氏とScotlandとの関わりはJSAの顧問でロキャロン社日本代表である綱島実氏と一緒にスコットランドのロキャロン社を訪ね、ご自身のオリジナルタータンを作成されたことから始まっています。展示会では、素晴らしいデザインの作品の数々(服にとどまらず、生活に関連するさまざまな品々)に囲まれ、皆川氏の温かいお人柄に触れ、素晴らしい時を過ごしました。

なお、「ミナ ベルホネン / 皆川明 つづく」展は7月3日から11月8日まで兵庫県立美術館で開催されます。(関)



スターリング大学短期語学留学体験記 福田 龍斗

写真:前列左から2人目

高校英語しか知らない我が身とギュウギュウのキャリーケース。頼れるものがそれしかない独り身で降り立った初海外の地。それがスターリングでした。他の学生よりも短期間であり、完璧な語学は身につけられませんでしたが、その代わりに“観光”では得られない、海外における“生活”

を通じた経験と、スターリングに来たからこそ出会えた友達を手に入れました。(あと、たくさんのスコッチウイスキーも)そして、さらに語学力を身につけて、スターリングにいつかまた帰ってくる。そんな決意を与えてくれた今回の留学は、人生で最も濃い時間でした。最後に、コロナ禍の中にもかかわらず、私たちの対応をしていただいた留学関係者の皆様に感謝いたします。

「スターリング大学春期英語研修」参加者募集(7週間:2021年2月8日~3月26日)

UNIVERSITY of
STIRLING



7週間の英語コースで本格的に英語の習得を目指したい方ご参加ください。3、4、5、6週間の参加も可能です。16歳以上であれば英語能力や年齢の制限はありません。クラブ活動に参加するなど現地の学生との交流が図れます。経費:学費、寮費、週末旅行(エディンバラ、グラスゴー、セント・アンドリュース、ネス湖一泊)すべて含んで約3,995ポンド。※左記金額は7週間参加の場合。参加期間によって料金は変動します。Flight代と生活費(自炊で1週間5000円程度)は別途支払いが必要です。
☆上記にご興味のある方はお気軽にJSA事務局までご連絡ください。会員のご家族、ご友人の方の参加も歓迎です。締切:11月30日【お問い合わせ】関妙子(Stirling University, Honorary Doctor)
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-28-1401 Tel/Fax:03-5988-8785
携帯:090-7192-4650 E-mail:taeko.seki@gmail.com



ご寄付ありがとうございました
運営費として大切に使わせていただきます

綱島 実さま 30,000円／折茂 佑子さま 10,000円／武藤 英輔さま 4,000円

編集後記

経験のないコロナ禍の中いかがお過ごしでしょうか?JSAの活動も例に漏れず困難な中にあります。光明はスティーブン・ベーカー氏が会長に就任されたことです。彼の大きなビジョンと実行力のもと、スタッフ一同JSAの飛躍のために力を尽くしてまいります。(飯村)

NPO法人
日本スコットランド交流協会
The Japan Scotland Association



本文編集協力
☆ 東京:関妙子・飯村英人・新改僚基・小根山茜
☆ 関西:香川久生 ☆ 九州:前原正人
☆ 東北:香取真理
☆ Scotland:松原衣里 ☆ 制作:野間忠博(ノーマデザイン)

東京本部 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-28-1401 Tokyo Headquarters 3-12-28-1401 Shimo-ochiai, Shinjuku-ku, Tokyo 161-0033, JAPAN
関西支部 〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町2-5-3-906 Kansai Branch 2-5-3-906 Shin-senri, Higashi-machi, Toyonaka-shi, Osaka 560-0082, JAPAN
九州支部 〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島2-23-2 Kyushu Branch 2-23-2 Kirishima, Miyazaki-shi, Miyazaki 880-0032, JAPAN
東北支部 〒030-0196 東京都青森県青森市合子沢山崎153-4 青森公立大学 香取真理研究室内
Tohoku Branch Prof Mari Katori's office, Aomori public University, 153-4 Yamazaki, Goshizawa, Aomori-shi, Aomori 030-0196, JAPAN
Scotland支部 12 Dryden Place, Edinburgh EH9 1RP, UK (e-mail: EdinburghJSA@gmail.com)

